

こんにちは! かさもと俊也

山口県オリジナル野菜「はなっこりー」集荷に!
(1月:長門市三隅 農事組合法人「中小野の郷」にて)

こんにちは!かさもと俊也です!県政レポート
[vol.7] 2015年2月1日発行

こんにちは。かさもと俊也です。皆様には日々様々な場でお世話になっており、心から感謝申し上げます。私は県議会11月定例会において、自身5回目となる一般質問を行いました。最近の活動と併せ、その内容をご報告いたします。

さて、昨年は県内で、岩国・和木地域の豪雨災害、長雨による農林水産物や観光産業への打撃など自然災害による社会経済への影響、そして長門市においても、年初の老舗企業倒産に始まり年末の鳥インフルエンザと、一年を通じ地域基幹産業界に激震が走る出来事が相次ぎました。

鳥インフルエンザ対策では、発生当初から県、市、商工団体等関係機関が一致協力して、防疫や風評被害防止にご尽力いただいた結果、去る1月23日には終息宣言が発令されました。長門市にとって初めての被災でしたが、養鶏業界が現場対応に追われる中、地域の主要産業を守ろうと尽力された多くの皆様に、重ねて感謝申し上げます。

一方で昨年は、活力みなぎる山口県の創造に向け、若さとやる気にあふれる村岡知事の誕生や、政策実現に向け

安定感を増す第三次安倍内閣の発足に加え、将来、地域資源を活かした情報発信や観光物産展開の主役となる「ながと物産合同会社」の設立、主要な交流拠点の一つとして渴望される仙崎地区のグランドデザイン策定など、人口減と超少子高齢社会の到来に向け、地域を牽引する「主役」と「拠点」をつくる確かな動きが出てまいりました。

二〇一五年が幕を開け、国においても、成長戦略を進めていく上で欠かせない地方創生の取組が進められています。

県及び長門市の地方創生がより鮮明な形となって展開されるよう、そして皆様の暮らしがより豊かなものとなるよう、本年も全力投球で邁進する所存です。

今後とも、皆様の代弁者として重責を全うしてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

山口県議員
本 俊也

二〇一五年も 全力投球!

かさもと俊也の \元気ハツラツ写真レポート!



10月 ▲市内各地区で敬老会
いつでもお元気で!地域の諸活動を支えている皆様に感謝。



10月 ▲長門市婦人レクリエーション大会
会員間の絆の深さを。私も副市長さんや市議会議長さんと共にクイズ付デカパン競争に参加。



10月 ▲第68回 長北医学会
学会発表や研究成果を通じ、よりよい医療サービスを。医療環境やサービスの充実強化に向け激励。



10月 ▲捕鯨とくじら食文化研修会
捕鯨とくじら食文化を守る長門市議連の皆様と地域全体での更なるくじら文化継承の場作りを。



10月 ▲第62回山口県和牛共進会
長門地域からも13頭が出展された県共進会。JA長門大津は昨年に続き総合優勝。見事2連覇を果たす。



10月 ▲第30回ながとふるさとまつり
観光、経済面も売りの多い秋を願うとともに、地域コミュニティ育成の場の継承に向け激励。



11月 ▲滝坂神楽舞
県無形民俗文化財に指定されている神楽舞。担い手が少ない伝統文化を継承する現場で皆様に激励。



11月 ▲第13回木屋川の水を守る森づくり交流会
木屋川下流域と上流域の関係者で将来に続く森づくりを。私も枝打ちに参加。



11月 ▲農山漁村女性の集い
管内8つの女性の組織の皆様が地域づくりやモノづくりを事例発表。女性パワーを更なる地域づくりに!



11月 ▲ラーメンとお米と野菜たち at 俵山
俵山地区の長門市地域おこし協力隊員を中心としたプロジェクトを応援。



12月 ▲11月定例会一般質問登壇
5度目の一般質問に登壇。傍聴していただいた皆様と村岡知事を表敬訪問。



12月 ▲障害者支援施設の清掃
施設役員・ボランティアの皆様とともに、気持ち良い新年を迎えたいため清掃活動。



1月 ▲長門商工会議所新年互礼会
長門地域の経済を支える商工業者の今年一年の事業のご繁栄を願って。



1月 ▲地産地消キャンペーン
県産鶏肉の美味しさと農水産物をピーアール。村岡知事も来場され、需要拡大に尽力。

県政報告会・対話集会

県政レポート Vol.5 に報告した 41 回目を以降をまとめております。皆様からいただいたご意見・ご要望は関係機関に対応を申し入れています。

- 43 上川西地区 10月24日(金)
- 49 新別名地区 11月29日(土)
- 50 大迫地区 11月29日(土)
- 52 白湯地区 1月15日(日)
- 54 蔵小田4地区 1月24日(月)
- 55 向津具地区 1月30日(金)
- 57 渋木地区 1月31日(土)
- 58 真木地区 1月31日(土)
- 41 大日比地区 10月11日(土)
- 42 下郷地区 10月17日(金)
- 44 豊原地区 10月24日(金)
- 45 上蔵小田地区 11月1日(土)
- 46 沢江地区 11月1日(土)
- 47 市内若手商工業者 11月1日(土)
- 48 湊六区はまゆう会 11月26日(水)
- 51 長門ライオンズクラブ 12月11日(木)
- 53 緑が丘地区 1月17日(火)
- 56 坂水地区 1月30日(金)

こんにちは!かさもと俊也です!県政レポート
[vol.6] 2015年2月1日発行

発行:かさもと俊也事務所

住所:〒759-4101 長門市東深川 2542-3 レインボービル1階
TEL/FAX: 0837-22-5226
EMAIL: kasamototoshiya@gmail.com

県政に対する皆様のご意見・ご要望をお寄せください!

山口県議会11月定例会 笠本俊也一般質問要約

質問① 中山間地域「やまぐち元 気生活圏」構想について 地域コミュニティ組織について

農山漁村版コンパクトなまちづくりである「やまぐち元気生活圏」構想の具現化に当たっては、これを支える人材や組織が不可欠。年々疲弊しつつある農山漁村で暮らす人々の「心の過疎」を食い止めるためにも、同構想において地域運営や地域経営の担い手となる「地域コミュニティ組織」の充実強化こそ最重要と考えるが、組織のあり方と今後の支援策をどのように考え、同構想をどのように推進していくのか。

答弁 村岡知事

大変厳しい状況にある中山間地域における地域づくりは、既存の集落の枠を超え、複数の集落が広域的に支え合う地域コミュニティ組織をもって、しっかりとした土台を創ることが基本。

複数集落による生活圏を形成することで生活サービスの拠点化・ネットワーク化を図るとともに、地域産業の振興や定住促進を目指すに当たり、その主体となる地域コミュニティ組織の果たす役割はこれまで以上に重要。市町と一層連携し、組織の新たな担い手となるリーダー群の養成や地域おこし協力隊の導入とともに、専門アドバイザーや企業、大学などの幅

習」を実施し、深川小に設置する長門分教室においては、深川小の児童と休み時間にあふれあうなど日常的な交流を進める。

俊也の目！
教育長から、深川小設置の長門分教室について、看護師配置や本校との連携確保、更には深川小児童との日常的な交流促進など、存在感のある教育活動の展開について前向きな答弁がありました。4月の開設までしっかりと見届けます。

質問⑤ 交流人口の 拡大について

世界大会のキャンプ地 誘致について

県では、世界大会の開催を観光客の増大や地域の活性化に結びつける絶好の機会ととらえ、参加国のキャンプ地誘致に取り組んでいるが、既に招致委員会を設定して機運醸成に取り組んでいる長門市との連携強化が誘致には不可欠。

①今後のキャンプ地決定手続き及びスケジュールはどうか。
②関係市町と連携した参加国へのアプローチなど、県として具体的な活動をどのように展開していくのか。
③関係市町の受入に向けた体制整備や施設整備に対し、県はどのような支援を行うのか。

答弁 上野総合企画部長

①東京オリンピック・パラリンピックは本年3月20日から、誘致を目指す自治体の受付を開始。ラグビーワールドカップは今年秋のイングランド大会で本大会への参加国が決まった後に、キャンプ地選定に向けた手続きを始める予定。
②県としては、キャンプ地等に係る幅広

広い人材の派遣、活動拠点の整備に対する助成など、きめ細かな支援に努める。こうした地域コミュニティ組織の充実強化により、将来にわたり維持・発展できる、底力のある中山間地域づくりを推進する。

俊也の目！
知事から、今後、地域コミュニティ組織が中山間地域における地域づくりの核になるとの認識のもと、きめ細かな支援に努めるとの心強い答弁をいただきました。「心の過疎」は待ったなしの深刻な状況。組織の充実強化が目に見える形で進むよう、注視してまいります。

県民局について

「やまぐち元気生活圏」構想の推進に向けては、最前線の県民局が市町としっかり連携し、地域に寄り添った積極的な取組を進めることが必要と考えるが、今後どのように取り組むのか。

答弁 上野総合企画部長

県民局では昨年度から、同局の地域づくり支援員が民間コーディネータと一体となって、中山間地域を継続的に支援する体制を整備するとともに、同局を中心に県の出先機関で構成する「中山間地域づくり地区連絡会議」に、新たに地元市町を加えてきたが、今後とも、市町との更なる連携強化を図り、局機能の一層の發揮に努めることにより、意欲的な地域づくりの取組を支援する。

い情報の収集・発信や、候補地の魅力を参加国が決まった後に、キャンプ地選定に向けた手続きを始める予定。

②県としては、キャンプ地等に係る幅広い情報の収集・発信や、候補地の魅力を参加国に伝えるためのガイドブックの作成などに取り組む。

③関係市町の招致委員会委員に名を連ね全庁を挙げた応援体制につなげるとともに、施設整備には、全国的スポーツ振興団体の助成事業の活用を検討する。

俊也の目！
キャンプ地選定に向けた手続きの開始は目前に迫っています。県の全庁を挙げたリードで誘致活動が成就することを大いに期待しています。この上は、全国的な助成事業の活用によって受入施設の整備が前進するよう、県のなお一層の支援を要望してまいります。

観光力強化について

①本年1月からの大河ドラマ放送に合わせ、大河ドラマ館が開館する。地元ではドラマ館までの直行バスや周遊バスの運行が計画されているが、広域をカバーする県が計画全体を統括し、継続運行に努めていくことが観光産業の活性化や地



俊也の目！
長門市には萩県民局の駐在員が置かれ、中山間地域の振興に向けて継続的な支援をいただいています。市との連携強化はもちろん、名実ともに「地域振興局」として県を挙げての取り組みを期待します。

質問② 定住促進における 空き家の活用について

UJターン希望者の定住ニーズに添えていくには、専任の定住支援員の配置や長門市が進める体験居住施設の設置運営、多くの自治体が力を注いでいる「空き家バンク」の活用などの状況を踏まえ、県においても、定住促進に向けた空き家の活用を検討すべきと考えるが、今後どのように取り組むのか。

答弁 上野総合企画部長

本県への移住希望者には、働く場と併せ「住まい」確保のニーズが高いことから、定住促進に向けては、住居確保の対策を重点的に進めていくことが重要。そうした意味で、近年増え続けている空き家の活用が有効と考えているものの、家屋の状態や貸し手・借り手の希望のミスマッチなどにより、活用に至らないケースも顕在化している。そこで、県としては、定住支援員による相談支援体制の充実に加え、体験居住施設の取組を県内に拡げていくとともに、市町と連携しつつ、移住希望者のニーズにしっかり応えていくよう、空き家の更なる活用に向け、積極的に取り組んでいく。

俊也の目！
せつかくの本県への移住希望者を逃さないためにも、潜在資産である空き家の活用という逆転の発想が必要です。長門市の取組を県内に拡げていくという県の姿勢を評価しますが、移住希望者一人ひとりにしっかりと寄り添っていただきたいと切に願っています。

域経済の好転に寄与すると思われる。周遊バスの運行に、県はどのように対応するのか。

答弁 木村商工労働部長

①周遊バスの運行については、市町と連携し、ウェブでのPRや旅行会社への情報提供に努める。また、各地域が広域連携を検討する場合は、広域的な視点からの提案・助言に努める。

②観光地へのバス路線の充実や接続ダイヤの改善などをバス事業者に要請するとともに、レンタカーや観光タクシーの利用拡大につながる料金割引やルート拡充などを関係事業者に働きかける。

また、旅行会社や観光客には、最新の二次交通情報をウェブやガイドブックによって提供する。まずは観光客の利用が多いJR新山口駅発のガイドブックを作成し、旅行商品の造成などに活用していただく。

俊也の目！
周遊バスの運行は、各地域での主体的な取組がもとより重要ですが、広域的な連携の検討には、是非県が積極的に関わっていただきたいものです。二次交通情報の提供については、JR新山口駅発のガイドブック作成など具体的な動きが見られるようになりました。

質問⑥ 県産農林水産物の首都圏 等への販路拡大について

全国放映される人気番組で長州黒かしまなどが紹介されるが、取り上げられた食材を継続的取引につなげるフォローこそ重要。農林漁業者の所得向上のためには、生産者団体や市町と連携し、県産農



質問③ 在宅医療・介護の 情報共有について

長門市医師会は地域医療連携情報システム「医療ネットながと」を立ち上げているが、超高齢社会の到来を見据えたとし、高齢者が、住み慣れた地域・在宅で安心して医療と介護を受けることができるよう、様々な関係者が情報を共有する基盤の整備が急務。情報システムを活用した医療・介護関係者の情報共有について、今後どのように取り組むのか。

答弁 小松健康福祉部長

高齢化の進行に伴う医療・介護需要の増大に対応するためには、医療・介護関係者が、必要な情報を電子化・ネットワーク化・共有化することが、高齢者の状態に応じた、きめ細かなサービスを切れ目なく提供する上で極めて有効。そのため、県としては、既存システムを発展させ、介護との連携強化に向けたシステム拡充の取組を支援してまいり。具体的には、地域の医療・介護関係者が、診療・服薬・リハビリ情報など、共有する情報やシステム活用方法についての十分な協議・検討ができるよう支援してまいり。

俊也の目！
現行「医療ネットながと」が、介護との連携強化に向けてシステム拡充されることを歓迎する。

林水産物を首都圏等へ販路拡大していくことが求められるが、県は今後、商品流通の川上から川下までの視点に立つて、どのように取り組むのか。

答弁 野村農林水産部長

本県を代表する長州黒かしまやノドグロ、県産日本酒などを売込戦略商品として、知事を売込隊長とするトップセールスや戦略的情報発信を展開し、首都圏等での認知度向上や商品の定着化を進める。

また、販路拡大の中で得られた取引先等のニーズや評価を生産現場へ還元するとともに、首都圏等のバイヤーを県内産地へ招へいすることにより、生産意欲の高揚や、需要に応じた生産体制の強化も図っていく。

県としては、関係団体や市町と連携しながら、販路開拓による需要拡大を起点に、川上の生産と川下の需要の結びつきを強化する。

俊也の目！
ながと成長戦略にとっても、首都圏等への販路拡大は悲願です。川上の生産から川下の需要に至る知事を先頭にしたい県の取組が県内農林漁業者の所得向上につながるよう、前向きな答弁で示された具体的な取組内容をしっかりと注視してまいります。

質問⑦ 山陰道及び長門地域の 道路整備について

①山陰道の建設促進に向け、長門・俄山道路の事業促進と俄山・下関間の事業着手については、どのような見通しか。
②山陰道へのアクセス道路として重要な県道美祢油谷線・砂利ヶ峠地区の事業促進に、今後どのように取り組むのか。
③昭和40年に建設された県道青海島線の青海大橋は災害時の避難・救援という

俊也の目！
この前向きな答弁をいただきました。診療・服薬・リハビリまで高齢者の情報が一覧できる体制ができれば、中山間地域の集落維持にとっても効果が期待できそうです。

質問④ 特別支援教育の 充実について

今回設置される美祢と長門の総合支援学校小・中・高の分教室は、適切な教員配置や医療的ケアの体制、本校との連携など、一人ひとりの教育的ニーズにきめ細かく対応できる体制を整え、5障害すべてを受け入れる分教室として、存在感のある教育活動を展開していく必要があると考えるが、今後どのように取り組むのか。

答弁 浅原教育長

本年4月の開設に向けて、教育的ニーズや保護者の意向を把握しているが、専門性を有する教職員を適切に配置するとともに、医療的ケアが必要な児童生徒が在籍する場合は、看護師の配置を検討する。また、本校との連携を図るため、合同学校行事を開催するとともに、教職員の指導方法に関する合同研修会などを実施する。

更に、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が可能な限り共に学べるよう、同年齢の児童生徒との「交流及び共同学習」の取組を進めることとされているので、県としては、国への積極的な要望活動を続けるとともに、必要性や整備効果を広く情報発信する。

③青海大橋については、平成3年建設の新橋ととも、平成25年度に老朽化対策の調査や設計を行い、今年度からは耐震化対策を検討している。まず、来年度から老朽化対策工事に着手し、耐震化対策工事についても、検討結果を踏まえ実施する。

④現在、長門油谷線の黄波戸地区で歩道設置を、久津小田線の本郷地区や油谷港線の向津具下地区で道路拡幅を行っており、残る未整備区間についても、緊急性や必要性を勘案し、計画的・効率的に整備を進める。

答弁 北崎土木建築部長

①長門・俄山道路については、用地買収が概ね完了し、今年度から橋りょう等の工事に着手。また、未着手区間の事業着手については、今後、絞り込み調査の中で道路の課題を精査し、優先区間の検討・選定を進めることとされているので、県としては、国への積極的な要望活動を続けるとともに、必要性や整備効果を広く情報発信する。

②砂利ヶ峠地区の整備については、平成24年度からバイパス工事を進め、今年度からは橋りょう工事に着手することとしており、一日も早い完成を目指す。

③青海大橋については、平成3年建設の新橋ととも、平成25年度に老朽化対策の調査や設計を行い、今年度からは耐震化対策を検討している。まず、来年度から老朽化対策工事に着手し、耐震化対策工事についても、検討結果を踏まえ実施する。

④現在、長門油谷線の黄波戸地区で歩道設置を、久津小田線の本郷地区や油谷港線の向津具下地区で道路拡幅を行っており、残る未整備区間についても、緊急性や必要性を勘案し、計画的・効率的に整備を進める。

俊也の目！
山陰道の建設促進に向け、アクセス道路を含めた事業促進並びに未着手区間の早期事業着手について、県の積極姿勢が伺えました。青海大橋については、老朽化対策工事に着手し、耐震化対策工事検討と朗報です。向津具半島地域についても、未整備区間の計画的・効率的整備に向け、積極的な答弁をいただきました。